

3.調査結果

本調査は、冬季積雪下での動物の動態調査を実施したが、調査回数を重ねる毎に積雪深が増し、立木に設置したカメラを上方へ移設しての調査となった。

今回使用したセンサーカメラはTREL10Jであるが、消費電力が少なくメンテナンス性も良い反面、夜間撮影にあつては赤外線フラッシュ発光により白黒撮影となり、また動物の動きへの追従性が低く像がぶれて、撮影された動物種の判別が困難な場合があつた。

この地域に広く分布し生息数も多いニホンザルの群れは、冬期間も活動が活発で、昨年生まれた子ザルと共に行動していたが、夜間の活動は一度も確認されなかつた。

動物界にあつては、狩り動物であるホンドキツネやホンドテンの活動も活発で、昼夜撮影確認され、餌動物であるトウホクノウサギも撮影確認された。

また、ニホンカモシカは、日中に撮影確認された。

別添のカメラ設置図に示すB・C地点では、センサーカメラを1本の立木に森林内の2方向に向けて設置したが、ENE方向に向けたB地点での動物の撮影数は少なかつた。一方C地点のNNW方向に向けたカメラでは、ニホンザルの群れ、ホンドテン・トウホクノウサギが撮影されている。

この動物撮影の少なかつたB地点のカメラは、赤沢林道に向いており、この林道も積雪の無い季節には動物も利用しやすいと思われるが、積雪下では、森林内の平坦な近道を通り道としていていると思われる。

各地点での確認種等は、

A地点：ニホンザル5回、ホンドキツネ4回、ホンドテン1回、カモシカ3回、ホンドタヌキ5回、動物種不明8回

B地点：ニホンザル3回、ホンドテン1回、トウホクノウサギ1回、動物種不明2回

C地点：ニホンザル7回、ホンドテン4回、トウホクノウサギ1回、ホンドタヌキ1回
動物種不明2回

となっている。



[ニホンザルの親子]

積雪面の足跡から、調査ポイント外でも多くの動物が活動していることが確認出来た。また、同じく足跡から、赤沢林道の赤石溪流に架かる、人工物である赤沢橋を利用し行動していることも確認出来た。

今後も調査を続けてまいります。